

◆シンポジウム「ニュースを創り出すアート」の力」趣旨説明◆

オーガナイザー
国際浮世絵学会 藤澤 茜

藝術学関連学会連合のシンポジウムは、今年で11回目を迎えることとなりました。

芸術という大きな枠組みは共有するものの、視点の異なる学会の研究者が一つの主題について検討する機会は、とても貴重なものであらうと存じます。毎年テーマを設定し、各参加学会よりパネリストを募り、活発な議論が交わされてきました。

本年は、はじめて国際浮世絵学会よりテーマ案を出ささせていただきました。浮世絵という、他の学会に比べて時代も限定された分野ではありますが、様々な情報を伝達するメディアとして発達した浮世絵版画の特性に着目し、他の芸術でも重要な役割を担うと思われる「ニュース性」をキーワードに据えてこのようなシンポジウムを企画することとなり、幸いにも多くの学会よりパネリストの方に御登壇いただけることとなりました。

芸術的な表現がどのようになされ、受容されてきたのか、という問題は、これまでも様々な場で解釈がなされてきました。作品表現の中には、作り手や表現者の意思、個性以外にも多くの要素が含まれており、背景にある社会通念や社会情勢、政治的メッセージ、同時代の流行などを読み解くことは作品を理解するための重要な作業となります。情報を伝達する「ニュース性」を持った作品は、絵画、写真、映像、音楽、演劇などにも数多くみられます。こうした作品が生み出された状況や文化的環境に与えた影響について多角的に検討することは、大きな意義があると思われます。

「ニュース性」をキーワードにすると、様々な問題が浮かび上がってきます。個々の作品が果たしたメディアとしての役割を明らかにすることも重要であり、その過程で加わり得る人為的な操作を検証する必要も生じてきます。また時には、ニュース性を帯びるが故に、独特な表現が生まれる場合もあると考えます。例えば浮世絵版画の場合は幕府の出版統制などもあり、規制の対象となり得る内容を描く場合に、別のものに置き換える作業を経てカモフラージュし、重層的にニュースを伝えるという手段をとることがあります。また報道写真についても、被写体や構図、撮影する瞬間の選択から、時に加えられる演出やキャプションの言葉に至るまで、伝えることと創ることにまつわる幾多の要因が介在しています。

「ニュース性」として考えられる情報には、戦争や災害なども含まれます。今回の討議でも関連の報告がなされますが、政治的観点に特化するのではなく、ファッションや最新文化などの情報伝達にも積極的に目を向け、その背景にある時代性や情報の質を考えた上で、芸術が独自に何を伝えていこうとしたかという問題について、各方面からの検討を加えていきたいと思ひます。

また、作品そのものが新たな流行や世界観を生み出す土台にもなり得ることもふまえ、芸術が新しい社会をどう導いていくかという、「ニュースを創り出していくアートの力」についても、討議を深めてまいりたいと存じます。